



独立行政法人国立美術館

国立アートリサーチセンター

National Center for Art Research

PRESS RELEASE

2026年4月吉日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

英国と日本における地域共創の最前線  
東京藝術大学との《共創フォーラム Vol.2》を開催  
「Arts, Health & Wellbeing ミュージアムで <sup>ウェルビーイング</sup> 幸せになる。」  
2026年5月23日(土)/国立新美術館

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター（略称：NCAR）（東京都千代田区 センター長：田中正之）は、来る5月23日（土）、健康とウェルビーイングに良い影響をもたらすアートや文化の活動を推進するため、ブリティッシュ・カウンシルとの共催で、東京藝術大学とともに共創フォーラム Vol.2 「Arts, Health & Wellbeing ミュージアムで幸せ（ウェルビーイング）になる。－英国と日本における地域共創の最前線」を国立新美術館（東京）にて開催します。

ミュージアムは、作品や資料との出会いを通して、ときに言葉を越えて人と人をつなぎ、人間の多様な表現を分かち合うことのできる公共の場です。こうした文化的体験が心身の健康を支えるうえで重要な役割を果たし得ることが、近年さまざまな研究の蓄積により明らかになってきました。

2023年に開催した共創フォーラム Vol.1では、主に英国のミュージアムにおける実践事例を紹介しました。第二弾となる今回は、個々のプログラムという「点」にとどまらず、地域全体で支え合う「面」へと視野を広げます。地域や自治体レベルでの実装を目指すには、福祉や医療など多様な主体の連携が不可欠です。本フォーラムでは、マンチェスターで進む「クリエイティブヘルス」と、日本の上野地域で構想が進む「文化的処方」を手がかりに、ミュージアムが地域とともに健康とウェルビーイングを支える基盤となる未来を展望します。

◆国立アートリサーチセンター（NCAR）の事業について <https://ncar.artmuseums.go.jp/>  
NCARは「アートをつなげる、深める、広げる」をミッションに、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援など、わが国の美術館活動全体の充実に寄与する活動に引き続き取り組んでいます。



「Arts, Health & Wellbeing –ミュージアムで幸せ(ウェルビーイング)になる –英国と日本における地域共創の最前線」キービジュアル

## 概要

- 開催日時：2026年5月23日（土）11:00～17:00（10:30開場）
- 会場：国立新美術館 3階講堂（港区六本木7丁目22-2）
- 主催：独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター（NCAR）  
東京藝術大学
- 共催：ブリティッシュ・カウンシル
- 申し込み方法：[ウェブサイト](https://ncar.artmuseums.go.jp/)より2026年4月13日（月）から5月22日（金）までにお申込みください。※定員150名（定員に達し次第受付終了）
- 参加費：無料
- その他：後日（6月末頃）アーカイブ動画を配信予定  
（5月22日（金）までに[ウェブサイト](https://ncar.artmuseums.go.jp/)から要事前申込み）
- ウェブサイト：[https://ncar.artmuseums.go.jp/events/d\\_and\\_i/wellbeing/post2026-3137.html](https://ncar.artmuseums.go.jp/events/d_and_i/wellbeing/post2026-3137.html)  
※本共創フォーラムはJST「共創の場形成支援プログラム」の支援を受け開催します。

## ■主なプログラム\*日英同時通訳、日本語文字通訳あり

11:00 開会・あいさつ	総合司会：牧野杏里（東京藝術大学特任助教） あいさつ ・田中正之（独立行政法人国立美術館理事長、国立西洋美術館長、国立アートリサーチセンター長） ・日比野克彦（東京藝術大学長、岐阜県美術館長、熊本市現代美術館長） ・ジム・ブース（ブリティッシュ・カウンシル駐日代表）
11:10 趣旨説明 ミュージアムと健康・ウェルビーイングの潮流	稲庭彩和子（国立アートリサーチセンター主任研究員、「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」研究開発課題リーダー）
11:30 セッション 英国マンチェスターのクリエイティブヘルス	モデレーター：伊藤達矢（東京藝術大学社会連携センター長教授、「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」プロジェクトリーダー） 登壇者： ・ハンナ・ウォーターソン （マンチェスター大学 ナレッジ・モビライゼーション研究員） ・ジョン・マコーリフ （マンチェスター大学教授 副学長補佐(文化担当)、クリエイティブ・マンチェスター ディレクター） ・ジュリー・マッカーシー （グレーター・マンチェスター合同行政機構（GMCA）・NHS グレーター・マンチェスタークリエイティブヘルス戦略リード）
12:20 昼休憩	
13:20 ウィットワース美術館におけるクリエイティブヘルスの実践	イ・スッキョン（マンチェスター大学ウィットワース美術館長、同大学キュラトリアル・プラクティス教授）
13:40 ART 共創拠点と「文化的処方」	伊藤達矢
14:00 上野地域の文化的処方「ミュージアム処方」とその背景	熊谷香寿美（東京都美術館 アートコミュニケーション担当係長、学芸員）
14:20 パネルディスカッション ミュージアムがウェルビーイングの場になるには何が必要か	モデレーター：稲庭彩和子 登壇者： ・熊谷香寿美 ・井上智子（永寿総合病院 認知症疾患医療センター認知症看護認定看護師） ・黒川廣子（東京藝術大学大学美術館長 教授） ・田中正之 ・日比野克彦
休憩	
15:20 ダイアログ 日英の視点から	・片岡真実（森美術館長、国立アートリサーチセンターエグゼクティブ・アドバイザー） ・湯浅真奈美（ブリティッシュ・カウンシル 東アジア地域アーツ統括ディレクター）
15:40 リフレクション	参加者同士のシェア
16:00 パネルディスカッション 文化拠点とウェルビーイング：社会を支える基盤としての役割を考える	モデレーター：伊藤達矢、稲庭彩和子 登壇者： ・イ・スッキョン ・ジョン・マコーリフ ・日比野克彦 ・田中正之
16:55 クロージング	

※詳細はウェブサイト( [https://ncar.artmuseums.go.jp/events/d\\_and\\_i/wellbeing/post2026-3137.html](https://ncar.artmuseums.go.jp/events/d_and_i/wellbeing/post2026-3137.html) )からご確認ください。

2026年4月吉日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

## クリエイティブヘルスと文化的処方に関する国際連携協定(MoU)の締結

国立アートリサーチセンター、東京藝術大学「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点(通称:ART 共創拠点)」、英国マンチェスター大学「クリエイティブ・マンチェスター(Creative Manchester)」の3機関は、クリエイティブヘルスと文化的処方の分野における国際連携協定(MoU)の締結にもとづく研究活動を2026年度より開始します。

英国のマンチェスターはクリエイティブヘルスを推進する英国有数の自治体であり、クリエイティブ・マンチェスターは大学・文化施設・自治体が一体となって研究活動と社会実装を進めるプラットフォームです。こうした文化・研究・行政の連携モデルは、NCAR や ART 共創拠点が進める文化的処方の取組とも共鳴するものであり、日英双方の知見の交流を通じた研究の深化が期待されます。

今回のフォーラムはこの国際連携の一環として開催されるものであり、英国から研究者・実践者を迎え、日英の知見を共有する場となります。フォーラム終了後には MoU 締結式を実施予定です。

\*取材をご希望の方は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

- ・締結式日時：2026年5月23日(土) 17:30~17:50
- ・会場：国立新美術館 3階講堂(港区六本木7丁目22-2)
- ・参加：関係者のみ

また、この協定により、5月27日に京都大学で行われる京都大学国際シンポジウム「社会的処方・文化的処方国際会議(the International Social Prescribing Conference 2026)」(<https://ispc2026.symposium-hp.jp/jp/index.html>)においても、この三者によるセッションを行います。



### <報道関係のお問合せ先>

『国立アートリサーチセンター』広報事務局 (株式会社プラップジャパン内)

TEL 03-4570-2273 FAX 03-4580-9127

E-mail [ncar@prap.co.jp](mailto:ncar@prap.co.jp)

※営業時間：月～金 10時～18時(祝日・年末年始除く)